

## 徳島県の高等教育のグランドデザインについての協議

日時	令和4年8月23日(火) 13:00~14:30
場所	Zoomによる遠隔会議
出席者	前原委員(鳴門教育大学)、筒井委員(徳島工業短期大学)、新見委員(徳島文理大学・短期大学部)、樋口委員(徳島大学)、安永委員長(四国大学・短期大学部)、田中委員(阿南工業高等学校専門学校)、林委員(徳島県政策創造部県立総合大学校本部) 吉田、谷口(中長期計画委員会事務局)

### 議題等

#### 1 協議事項

##### (1)協議実施の背景について

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申(中央教育審議会)の内容について、中長期計画委員会事務局より説明を行い、今年度より、とくしま産学官連携プラットフォーム中長期計画委員会にて、「徳島県の高等教育におけるグランドデザイン」について、年1回程度議論を行うこと、また、議論の内容についてはHPを通じて広く地域へ公表することについて、承認を受けた。

##### (2)徳島における高等教育のグランドデザインについて

徳島における高等教育のグランドデザインについて協議を進めるにあたり、第一回となる今回は、答申の内容も踏まえた上で、各委員が感じる課題やプラットフォームにおいて注力すべきと考える取組等について委員より意見をいただくこととした。

##### <委員からの意見>

○「**学習者本位の教育への転換**」といった観点は非常に重要であると考えている。一方、近年は、就職など、学生が自分の将来に関する重要なことを親等、周囲の希望どおりに意思決定するという例が少なくない。「何を学びたいのか」学生自身で考えるようになっていなくてはいろいろな場面で困ることになる。物事を自分で判断して人生を決める教育をしていくためには、小さいころから近所の会社でどのような仕事をしているのか実際に体験をしたり、異なる地域で生活をしたりさまざまな経験をさせてあげることが重要ではないかと考える。

小・中学生の時にいろいろな経験をし、高校から大学にかけて自分でしたいことを決めるという形を取れたら良いのではないかと。また、そうしたプログラムがあればおもしろいと思う。

プラットフォームの取組に関しては、いろいろな地域の子供たちと交流する機会があれば良いと思うのでそういった取組があればと思う。

○学生の出口(就職)確保という面もあるが、将来的な教育を見据えた課題としては産業界との連携が弱いと感じる。産業界との連携強化は大事である。自大学の学生のためということもあるが、普段から関係強化をしていかなければと思っている。

個別の大学では進めることが難しいこともあるが、プラットフォームにおいて大学間で協力して進められることは非常に効果を感じている。今後もこうした連携を強化できればと思う。

○産学連携の観点では、大学が主になって連携をする場合、大学、企業間が互いに win - win の関係であるべきだが、どうしても事業を推進する側が引っ張っていくのが現状である。そのため、双方ともしっかりとタッグを組んで事業を行うことが難しいという課題があると思う。大学と連携をしたいと思っても大学に対して敷居が高いため、見逃しが生まれることがある。敷居を下げるような仕組みが生まれたら良いと思う。

また、「リカレント教育」という観点では、リカレント教育を推進しているが、まだまだ働いている人に受講していただくことが難しいと感じている。

○プラットフォームに参加し、本学としても多く取組をしている。多様な学生を1つの目標に導いていこうと思うと、少人数の教職員で学生の周りを取り囲むような体制で指導をすることも大切であると思う。ただ、本学の教職員のみでは十分な効果をあげることが難しい場合もあるため、プラットフォームの取組に参加する機会をいただいて、学生にいろいろな体験、考え方に触れさせるような指導をさせていければと思う。

○不幸にも新型コロナウイルスの流行により、いろいろなことが少しずつ変わっているため、本学でもグランドデザインの答申をベースに新たな目標をもって進まなければいけないと思う。産学官がどのように連携し、本学の強みを発信できるのかということ各高等教育機関固有の事情もあり内部でも悩みながら進めている。

○グランドデザインの中でも18歳人口の減少についての記載があるので、将来的には留学生や社会人を積極的に受け入れる体制を作り、拡大することが重要である。新型コロナウイルスの関係で留学生は交流が減っている。ただ、アフターコロナに向けて留学生を含めた人材の確保は重要だと認識しているので、ご意見をいただきながら各施策を進めていきたいと思っている。

○20年後には徳島県全体の人口は30%減、市町村別に見ると3分の2がなくなってしまうと言われている。今からグランドデザインに取り組み、そういう流れを断ち切る、もしくは遅らせることが大切である。プラットフォームでできること、これから必要だと思うことについて知恵を出しながら一歩ずつ進んでいければと思う。

以上